

社会福祉法人 楽山会
第二椎の実子供の家
平成27年度 事業報告

平成27年度から施行された「子ども子育て支援新制度」を踏まえ、「すべての子どもたちの健やかな成長と保護者支援」「地域子育て家庭支援」に力を注いできた。また、社会情勢の変化に伴い、より社会のニーズに対応した保育園のあり方を、椎の実子供の家と合同でプロジェクトチームを立ち上げて調査・研究した。チーム構成はリーダー層を中心にし、8施設を訪問調査した。先進保育園視察結果を報告し合う等、園舎建替えに向けて2園全職員間で意識の一体化を図った。

また、法人の保育理念をよりよく実践していく人材の育成ための「椎の実子供の家・第二椎の実子供の家 職員研修計画書」を作成した。今後は、職種別・階層別の研修に計画書を活用していく。

平成27年度 重点目標

- I 生活や遊び、運動を通しての総合的な保育の充実
- II 衛生管理、安全管理の見直し及び強化
- III 人材育成のためのOJT及び研修
- IV 地域活動の取り組み
- V 将来を見据えた保育園のあり方の調査研究

I 生活や遊び、運動を通しての総合的な保育の充実

子どもと生活や遊びを共にする中で、一人ひとりの子どもの心身の状態を把握しながら、その発達の援助を適切に行っていくために、子どもの発達及び生活の連続性に配慮した保育に努めた。特に、運動などを通しての健康な体づくりを一層推進することを重視し、散歩に出かけたり、ルールのある集団遊びの機会を増やすなど保育の工夫に力を注いだ。子どもたちが、友だちと一緒に考え、協力しあったり、体を存分に動かして遊ぶ経験が増えていくように、意図的な活動を多く取り入れるようにした。鬼ごっこやドッチボールなど、子ども同士で誘い合って遊ぶ姿が増えてきた。

平成27年度は、豊かな心や感性の醸成を目指し、外部講師による音楽リズム活動を3歳児にも導入した。友だちと一緒に歌を歌ったり表現をする楽しみを感じる経験ができた。

II 衛生管理、安全管理の見直し及び強化

施設内の環境を常に衛生的、適切な状態に保持するとともに、衛生管理の改革を行うなど、保健的環境の維持及び向上に努めた。

エアコンや空気清浄器の有効活用と玩具等の消毒、室内の湿度管理などを行い、特に衛生面には配慮した。子どもも職員も、タオル等は共用せず個別のものを使用するよう徹底し、子ども達には、さらに手洗いやうがいの指導を行い、感染症の予防につなげた。

安全については、安全危機管理委員会を中心にマニュアルの見直しを行い、「大災害を含めた防災マニュアル 事業継続計画」(BCP)を完成させた。帰宅困難者対策についても、防災計

画に盛り込んだ。計画に応じた職員体制を整えた。

また、自然災害や思わぬ事件・事故などの緊急時の保護者への連絡方法として、「メール等一斉配信システム」の導入を決定し、平成 28 年度からの実施に備えた。保護者へ正確な情報を迅速に提供していくこととする。

固定遊具や施設内外の安全点検も実施し、「ヒヤリハット」報告の活用とともに、職員相互で気づきを共有し合い、常に危機意識を持って保育にあたるよう周知徹底をしたことで、事故件数減につなげることができた。

Ⅲ 人材育成のための OJT 及び研修

平成 27 年度よりクラスリーダーの位置づけを明確にし、よりリーダーシップを発揮して、クラス運営や後輩への指導にあたった。職員一人ひとりが明確な目標に向かって職務・職責を果たしていくために、上位者による 1 対 1 の OJT を実施し、課題や取り組みなどを記した「個人カルテ」を用いたことで、人材育成の強化を図ることができた。

また、全体の保育力の向上をねらい、専門講師による内部研修会を定期的実施した。子どもの理解や子どもへの適切な対応の仕方を学び、保育実践に活かすことができた。全職員の共通理解と一貫した対応を行っていくために、必要な知識を学ぶ貴重な機会となった。

その他大学講師を招き、保育や食育の質を高める講座を開催し、研鑽を積んだ。

去年開催することができなかった両園での公開保育を定期的実施し、保育実践を通して保育の振り返りや保育の質の向上につなげることができた。

Ⅳ 地域活動の取り組み

地域の子育て支援については、子育て家庭に対し配布していた「子育て情報誌」に代わる情報源として、ホームページや屋外掲示板を有効活用することで活性化を図った。さらに「出産を迎える親の体験学習」を新たに 7 回開催した。内容は、離乳食講習会・わらべ歌遊び・0 歳児クラス体験及び見学会などで、参加者に大変好評であった。地域社会における子育て家庭の交流の場として、また子育てのサポーターとして保育園の役割を果たすことができた。

運動会を「保育所体験」として参加者を募ったところ、地域の方の参加も多数あった。

次世代育成支援については、平成 27 年度より「保育実習生の受け入れ」を開始した。実習生に教えることを通じて、職員にとっても仕事を振り返る良い体験となった。

三鷹ボランティアセンターへの登録も新規で行い、小学 6 年生から専門学校生までの幅広い学生ボランティアを迎え、次世代育成への取り組みを積極的に行うことができた。

Ⅴ 将来を見据えた保育園のあり方の調査研究

椎の実子供の家の園舎建替え計画にあわせて、椎の実子供の家と第二椎の実子供の家の職員により、新園舎建設プロジェクトチームを組織し、将来を見据えた保育園のあり方を調査研究し、新園舎建替え構想の策定に着手した。その成果については、中間報告という形で、平成 28 年 2 月 21 日に合同研修会を開催し、先進保育園視察結果を報告した。2 園全職員間で共有することで、園舎建替えに向けて意識の一体化を図った。